施設名称:府立女性自立支援センター

指定管理者:(社福)四天王寺福祉事業団

指定期間:令和3年4月1日~令和8年3月31日

所管課:福祉部子ども家庭局家庭支援課

				_			
	評価項目	評価基準 (内容)	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言
				S∼C		S∼C	
			○様々な事情により地域での継続した生活が困難な女性を	S	○提案内容について、着実に履行されている。	S	○各種研修について、どの範囲の職員
			保護し、自立支援を目的に施設運営を行った。利用者の安		○昨年度と比較し受入人数が増加したが、適切に支援を		○各種研修について、どの範囲の職員がどのような形式で受けているのか、研修を職員間でどのように周知しているのか等、研修の活かされたの実情を把握されたい。 ○入所者が多様化しているので、「生活のしおり」について、現在の記載
			心と安全の確保・個人情報の保護・人権の擁護・個人とし		行っている。		か、研修を職員間でどのように周知
			ての尊厳の回復を目指し、質の高い支援を行った。利用者		○女性支援法が施行され、施設としての対応を検討しつ		しているのか等、研修の活かされ方
	(1)施設の設置目的	○提案のあった基本方針に沿った	の意思及び人権を尊重した自立支援計画に基づき、自立の		つ、府とも連携を図っている。		の実情を把握されたい。
	及び具体的な管理	管理運営	促進をした。		○会議や研修に参加し、新たな情報や知識の取得に努め		
	運営方針	日在座台	○職種ごとに業務に活用できる研修に参加した。研修に参加		ている。		
			した際には出張報告書と資料を全職員に回覧するなど、研		○利用者満足の向上に向けた独自の取組み(利用者アン		
			修内容を他の職員に伝達する機会を設けた。		ケートの実施等)を行っている。		
			○利用者アンケートを実施し、施設生活や支援計画等につい				
			て利用者の声を把握するよう努めた。				
I			○幅広く利用者を受け入れ、様々なニーズに対応するため、	S	○提案内容について着実に履行している。	S	○入所者が多様化しているので、「生
平等利		専門知識を持った職員を配置し、チームで協働し支援を行 の利用者主体の施設運営を実現するため、独自の取組み			活のしおり」について、現在の記載		
利 用 が			った。		(寮内会議の実施、アンケート等) を行っている。		で内容が伝わるのか、適宜見直しを
が確			・利用者に対しては、「生活のしおり」を作成し施設での生	がある方等、高度な支援が必要な利用者が増加してい	実施されたい。		
保さ		活について説明している。(居室に常備) がある方等、高度な支援が必要な利用者が増加してい					
れる			・中長期にわたり施設を利用する際には、利用者との面談に	るが、有資格の支援員を中心に柔軟に対応している。 〇外国籍の利用者も増加しており、従来使用していた翻			
Ĵ			基づき自立支援計画を作成した。作成にあたってはアセス				
う適切			メントを行い本人の目標を確認し、その目標を達成するた				
- 切 な			めの小さな目標を本人と相談して計画書を作成した。		係機関と連携して通訳者を手配する等、工夫して対応		
を管理			・個々の利用者のニーズに合わせ、個別的な支援を実施して		している。		
を		○提案のあった基本方針に沿った	いる。同行支援 (裁判所、行政機関、病院、法律相談等)、				
行う	(2)平等な利用を図	取組み	同伴児童に対する保育や学習支援、金銭管理の難しい利用				
ため	るための具体的	○高齢者、障がい者、外国人、性的	者に対しては金銭の保管を含めた金銭管理を行う等、多岐				
の方策	手法及び期待さ	マイノリティの利用者等配慮を	にわたる支援を実施している。		訳ツールで対応できないケースが増加しているが、関 係機関と連携して通訳者を手配する等、工夫して対応		
策	れる効果	要する利用者に対する利用援助	・中長期利用者全員を対象として毎月、寮内会議を実施して				
		女 , 3个项间在1CAI , 3个项间 <i>设约</i>	いる。担当職員が出席し、施設からの連絡事項や利用者か				
			らの改善の意見を汲み上げるようにしている。また、匿名				
			を希望する利用者については、意見箱を設置し意見を汲み				
			上げるようにしている。				
			○年齢や障がいの有無に関わらず、広く利用者を受け入れ				
			て個別課題やニーズに対応した支援を行った。生活状況				
			から障がい福祉サービスが必要な利用者については、手				
			帳の取得や福祉サービスの利用の調整・年金の受給の支				
			援を行った。				
			○外国人支援において、日本語がほとんど話せない外国籍の				
			利用者にはインターネットの翻訳、ポケトークを活用しコ				

			ミュニケーションを行った。上記ツールで対応できない希				
			少言語の利用者には、通訳者を手配して対応した。				
			①利用者を尊重した支援を心掛け、利用者が自己決定できる	S	○提案内容について、着実に履行されている。	S	○ヒヤリハットについて、収集するこ
			よう、職員研修を実施した。自立支援計画策定にあたって		○定期的かつ随時必要に応じ自立支援計画の見直しを行		とだけに注力するのでなく、内容を
			は、アセスメントシートを用いて利用者と振り返りを行い		っており、本人と自立までの過程が共有できている。		精査された上で再発防止や振り返
			ながら、今後の希望を汲み取り、利用者の意見を反映でき		○利用者からの意見や苦情について、対応可能な内容に		りを行われたい。
			るものとした。また、利用者を尊重したサービス提供がで		ついて速やかに対応を行えている。		○利用者アンケートの回答を取りま
			きるよう、専門的な研修に参加した。		○法律相談は、施設内にいながら専門的な助言を受ける		とめる際に、自由記述の欄は、「は
			②全利用者に対して、居室の個室利用を実施した。個人浴室		ことができ、利用者が退所後の生活を見据えるうえで		い」・「いいえ」どちらの人の意見な
		○提案のあったサービス向上を図			有益である。		のかが分かるようにされたい。
		るための取組み	また、権利擁護や個人情報保護に関する規定の整備を行				
		①利用者を尊重したサービスの提	い、規定に基づいて支援を行っている。				
		供(利用者尊重や基本的人権、女	③施設の生活の案内冊子の中に専門職が配置されているこ				
		性の人権への配慮、二次被害防止	とを明記し、相談を受け付けていることを示した。				
Ⅱ 施		等)	また、苦情解決の体制を整備し、受付担当者を設置し掲示				
設の		②利用者のプライバシー保護に関	している他、利用者が意見を述べやすいよう意見箱を共有				
効		する規定・マニュアル等の整備	スペースに設置した。				
用を	(1)サービスの向上 を図るための具	③利用者が意見を述べやすい環境	④中長期支援を受ける利用者に対して自立支援計画書を作				
を最大		の整備や苦情解決の仕組み	成し、定期的に施設職員と利用者が面接を通して計画を見				
限発	体的手法及び期	④サービス内容についての定期的	直した。また、ヒヤリハットについて、ボックスを設置し				
揮	待される効果	な評価の実施や改善に取組む体	書き方を簡素化することで、すぐに記載し投函できるよう				
する	付される別本	制の整備、評価を受けて改善した	にした。投函されたヒヤリハットと対策を事務所に掲示				
ため		取組み内容	し、事故の発生を抑制した。				
\mathcal{O}		⑤利用者に関するサービス実施状	⑤毎朝、施設全体のミーティング・各部署のミーティングを				
方策		況の記録や利用者に関する情報	行い、情報を共有した。また、職員全体で共有すべき事柄				
		の職員間の共有化	は支援日誌に記録し、パソコンサーバで各職員が確認して				
		⑥利用者満足の向上に向けた取組	共有を図った。				
		み	⑥中長期利用者へは一年に一度、短期利用者には期間終了時				
		⑦自主事業の実施についての取組	に、施設の生活全般についてのアンケート調査を行った。				
		み	コロナ禍で縮小していた行事を再開し、ニーズ等に合わせ				
			て利用者が楽しめる行事を実施した。				
			⑦女性問題に精通した弁護士に来所してもらい、施設内で法				
			律相談を行った。利用者が法律相談に行く際、安全確保と				
			利用者の代弁のため概ね施設職員が弁護士事務所まで同				
			行しているが、施設に弁護士が来所し法律相談を実施する				
			ことにより、利用者の安全確保と職員の支援時間の効率化				
			を実現できた。				
						I	1

		① 個々の利用者の特性に応じ、衣食住や情報、金銭管理等に関する生活スキル向上のための支援を実施した。 ②利用者と他者(子ども、両親、きょうだい等)との関係の支援として、関係機関と連携しながら、利用者と他者との関係構築を支援した。 ③心理的な課題を持つ利用者に対しては、心理教育や心理士によるカウンセリングを実施している。カウンセリングを利用される方については、主訴を明確にし、どのような方	S	 ○提案内容について、着実に履行されている。 ○日常的な生活スキル(衣食住)のみならず、情報や金銭管理等、利用者が自立した生活を送る上で不可欠な多様なスキルについて支援を実施している。 ○同伴児に対しても学習支援や保育等の支援を実施しており、多くの児童・母親に活用されている。 	S	○情報リテラシーが弱い方は詐欺被害に遭いやすい。近年はロマンス計欺の被害も拡大していることから、警察の生活安全課と積極的に関わったり、詐欺被害に関する研修を行ったりなどを実施されたい。
(2)利用者の自立支援を図るための 具体的手法効果	○提案のあった自立支援を図るための取組み ①利用者の衣食住や情報に関する生活スキル向上のための支援 ②利用者と他者(子ども、両支援 ③心理的支援 ③心理を持つ利用者に対する支援 ④利用者が必要に応じてがの支援 ⑤利用者が必要に応じるための支援・の間伴児童に対する支援・学習関係のはに対する支援・学習関係を有に関する相談支援・学の関係を変に向けた支援・関係を変に向けた支援・協力 ⑥対を復等に向けた支援・協力 ⑥女性自立支援を適切な移行及が、受験をの連携・協力 ⑥女性自立支援を変にした支援・協力 ⑥女性自立支援を変にした支援・協力 ⑥女性自立支援を変にした支援・協力 ⑥女性自立支援を変にした支援・協力	ーワークや障がい者職業能力開発校、障がい福祉サービス 事業所などの支援機関を利用し、就労が定着出来るよう利 用者と共に模索している。 ・利用者のワード、エクセルの資格取得等のため、パソコン を貸与している。 ⑤利用者が必要に応じて社会資源を有効に利用できるため の支援として、必要な社会資源についての情報をストック して支援内容に合わせてスムーズに活用できるよう、社会 資源との仲介や情報提供を行った。内勤では利用者のニー ズに合わせて新たな作業所を開拓し、作業内容の多様化を 実現した。 ・退所後にそなえて相談窓口の情報を提供し、必要に応じて 一緒に窓口へ行き顔つなぎを行った。 ⑥同伴児童に対する支援については、学習会や遊びの提供、 保育開放を実施している。生活のリズムを整えるための大 きな柱「睡眠・食事・遊び」を大切に季節や年齢に合わせ				
		地域生活が継続、維持できるように、関係機関と連携し必要な手続きを行ったほか、金銭管理や家電設置等の日常生				

		活に関する支援、母子関係の調整・心理カウンセリング等の対人関係に関する支援、弁護士相談・離婚調停・病院受診の同行などの支援を行った。 〇利用者個々に応じた支援を積み重ねることにより利用者自身に課題を自覚させ、その課題を一つずつ解決していくことで自立に繋がった。				
		○専門業者に委託し法定点検を行っている。また、施設内に 防火安全消防設備チームを組織して毎月施設内を巡回し、	A	○提案内容について、着実に履行されている。 ○大阪府実施工事以外にも、必要に応じて施設独自で補	A	
	○効率的、効果的な維持管理の実施	非常灯や消火機器の点検など安全管理を行っている。		修している。(緊急度、難易度、予算執行状況等により		
(a) #==== 0 44 #= ## 711		・施設内に補修、施設管理を担当する環境営繕チームを組織		判断)		
(3)施設の維持管理		し、軽微な修繕の実施、業者への修繕依頼等、早期に発見		○経年劣化による不具合が多々発生している中でも、都		
の内容、適格性及 び実現の可能性		し修繕を実施している。		度適切に対応している。		
ひそがりり 肥性		・規模の大きな修繕については、適宜施設所管課である家庭				
		支援課に報告し、府が補修対応を行っている。				
		・軽微な箇所は職員が対応することで、経費削減と利用者サ				
		ービス維持を実現できた。				

I (1)施設の管理運営 に係る経費の内容	○経費縮減の取組み○経費の縮減により、利用者の安全及び生活の快適性が低下しないための留意	 ○経費縮減の取組みについて、備品等を購入する際は相見積もりを取得して支出を抑えた。 ・委託業者の見直しを定期的に行う等できる範囲で経費の縮減を目指した。 ・法人全体で給与事務システムを導入し、人事・労務管理の効率化を図っている。 ○経費の縮減により、利用者の安全及び生活の快適性が低下しないための留意について、設備の不具合には早急に対応し、利用者サービスを維持した。また、食材費高騰による食費単価の値上げに対し、他の米業者から見積もりを取り寄せて食材確保経路を提案することで今後の値上げリスクを軽減した。 	S	 ○提案内容について、着実に履行されている。 ○施設主体の工事にあたっては、入札や相見積り取得等により経費削減に努めている。 ○昨今の物価高騰による食材費の値上げ等、やむを得ない支出増がある中で、他の食品業者の見積もりを取得して今後の値上げリスクに備える等、限られた財源内で工夫して対応している。 	S	○物価高騰の補助金等を積極的に活 用されたい。
7 (1) 収支計画の内 容、適格性及び実現 の可能性	│○経費縮減に努める中で、利用者の	 ○人件費や委託料、給食料が上昇する中で、支出増は避けられないが、委託業者等に働きかけ調整した結果、最低限の値上げに留めることができた。 ○支出の増加項目はあるが、支出の減少項目や収入の増加によりカバーできる見込みであり、全体で見ると計画と比して妥当な収支となるように、また、管理運営経費の所要額の範囲内で運営出来るように努めた。 	A	○事業収支の実績は、計画に比して概ね妥当である。○昨今の物価高騰により食材費が高騰しているが、食材を減らすのではなく調整のうえ最低限の値上げを受諾しており、利用者の栄養状態を悪化させないよう努めている。	S	○昨今の物価高騰の中でも、利用者 支援に影響を及ぼすことがないよ うに努められている。引き続き、 計画的な収支に努められたい。
(2) 可能 安定 の が する で が が が が が が が が が が が が が が が が が が		 置している。 ・退所者自立支援事業の対象者には、支援計画を基に、適切な関係機関へ繋ぐ等、地域生活移行への不安を軽減し、地域で安定した生活を継続できるよう支援を行った。 ○提案のあった安定的な運営を図るための取組みについて ①法人の理念については、「宣言」として法人のホームページや施設内に掲示している。新規採用職員には、法人の理念や福祉サービスに関する基本方針について研修を実施した。 ②府から委託された管理運営業務の内容及び法人の年度ご 		 ○提案内容について、着実に履行されている。 ○施設独自の取組みとして、今年度より月に1回利用者と職員がともに学べる研修会が実施され、弁護士や医師等から専門的な知識を得られる有益な場となっている。 ○職員の有給取得については引き続き呼びかけられたい。 	A	

③法令遵守の観点から研修に参加し、会議などで遵守すべき 法令について職員に周知した。施設の問題や各職員の意見 を役職者が集約し、リーダー会議や運営会議で話し合い、 管理者が指導、決定を下した。個々の職員に対しては、法 人の業務管理・評価シートを活用し、個別面談を通して指 導を行い情報の共有に努めた。 ④福祉の動向については、研修・会議等により法人内の職員 との交流の機会を持ち、各制度の動向などの情報を共有し ている。また、全国的な課題である利用者の減少について、 全国の施設とともに検討・協議を行った。 ・予算立案については現場の職員主導で作成し、現状に沿っ た予算立案を作成した。半期に一度経営計画を見直し、状 況に合わせて予算を適切に執行した。 ⑤法人内に採用委員会を置き、法人全体で採用計画を立て、 優秀な職員の確保に努めた。経営計画に基づく具体的な事 業活動から人員体制を考え、法人内の人材の登用も含めて 調整を図った。法人採用のみでは人員がまかなえないた め、施設独自で契約社員を雇用するとともに、雇用につな がるように実習生の受け入れを積極的に行った。 ⑥職員の質の向上を図るための取組みとして、 ≪職員のスキル向上に係る取組み≫ ・法人の役割資格等級基準に沿って、業務管理・評価シート を活用し職員を計画的に育成・指導した。法人では研修セ ンターが法人全体の研修計画を立て、研修を実施した。施 設においても経営計画に基づいた研修を実施した。入職後 3年間自己啓発費を支給し、各職員の質の向上に役立て ≪利用者のサービス向上に係る取組み≫ ・講師を招き事例を用いて検証する SV 研修を実施した。 ・利用者アンケートや事故報告等の内容を全員へ周知し改 善に向けて話し合いを行った。 ・施設独自の取組みとして、5月より外部講師を招聘し、性 教育や債務整理など、専門的な知識を得られる機会を設け ⑦安全管理について、各種マニュアル(事故対応マニュアル・ 感染症マニュアル・災害対応マニュアル・不審者対応マニ ュアル等)に基づき対応した。BCPを作成し、定期的に災 害を想定した防災訓練を実施しながら、実践に沿ったもの になる様に随時改訂した。 ・近隣施設とも連携し、防災訓練や救命講習などを実施し た。 ⑧年度当初に事業計画・経営計画を作成し、適宜見直しを行 った。また、施設総合管理・警備業務・給食業務等、必要

			に応じて業務の再委託を行った。			
			 ○適切な労働環境の確保について、法人内に職員のメンタルへルスに関する相談窓口を設置しているほか、法人内で全職員に対してストレスチェックを実施している。 ・法人内において、法人顧問弁護士・産業医による「メンタルヘルスケア研修」を実施した。 ・会議などで有休取得を推奨するとともに、可能な限り本人の希望を取り入れたシフトを作成した。 			
	3)安定的な運営が 可能となる財政 的基盤	○法人の経営状況	○法人が設置する保育所の改築を行ったことによる償還金 (支出)が増加しているが、社会福祉事業を行うために必要な資金は確保している。	 ○法人の別施設(保育園等)の建替に伴う整備費の償還が財源を圧迫している。 なお、当期末支払資金残高に比して当期末借入金残高が大きいが、年間 198,892,000 円償還できていることに加え、別途積立金も毎年計上されており、それらも踏まえると、概ね本施設の管理運営を行うために法人全体として必要な資金が確保されている。 ○本施設の管理運営に際して求められる、様々な困難を抱える女性への支援ノウハウを蓄積できるだけの、様々な社会福祉事業を適正に実施している。 	В	
際	(1) 府施策との整 合性	○法人として社会貢献活動等への取組み○府の事業への協力○行政の福祉化への取組み○府民・NPOとの協働○環境問題への取組み	 ○法人としての社会貢献活動等への取組みについて、大阪府社会福祉協議会を通じ、生活保護制度利用までの生活保障として、食料品や日用品の現物支給、光熱費、家賃の支払い、就職時の支度資金などの支給などの社会貢献事業を行っている。また、保育園のスマイルサポーターにも参加している。 ・地域の子ども向けの行事開催による遊びの場の提供や、地域の幼稚園や小学校で「障がい」をテーマにした授業を実施している。 ○府の事業への協力について、関係機関主催の事業に積極的に参加した。 ・大阪万博開催に向けたステッカーを掲示した。 ・子ども110番の家に登録している。 ○行政の福祉化への取組みについて、知的障がい者の職場定着支援を、障害者就業・生活支援センター等と連携して行った。 ・母子家庭の母、寡婦、高年齢者等就労困難者を雇用継続した。 ・おおさか人材雇用開発人権センターに、法人として加入している。 	○提案内容について、着実に履行されている。○障がい者や就職が困難な方の雇用により、行政の福祉化の取組みを実施している。○施設特性上の制約がある中、安全に留意しながら積極的に地域やNPOと連携している。	A	

・大阪府社会福祉協議会が推進している社会貢献事業(大阪	
しあわせネットワーク)の地域活動に参加している。	
○府民・NPO との協働について、NPO 法人「FLC 安心とつな	
がり」のコミュニティづくりネットワークと協力しながら	
リラックス法などについてのワークショップを実施した。	
・NPO「和泉市さをりの森」からボランティアを派遣しても	
らい、月1回さをり織り教室を開催し、余暇の充実に取り	
組んだ。	
・ふーどばんくOSAKAと提携し、生活保護の受給決定ま	
でや他制度を利用しても退所後の食の確保が難しい利用	
者を対象に、食材を提供している。	
○環境問題への取組みについて、廃棄物やリサイクルについ	
ては法令に基づいて適切に処理した。また、利用者にも協	
力を求め、健康・生活に支障のない程度に節電・節水等取	
り組んだ。	
・ごみの分別に関しても、利用者にも協力を求め、資源ごみ	
の回収に取り組んだ。	